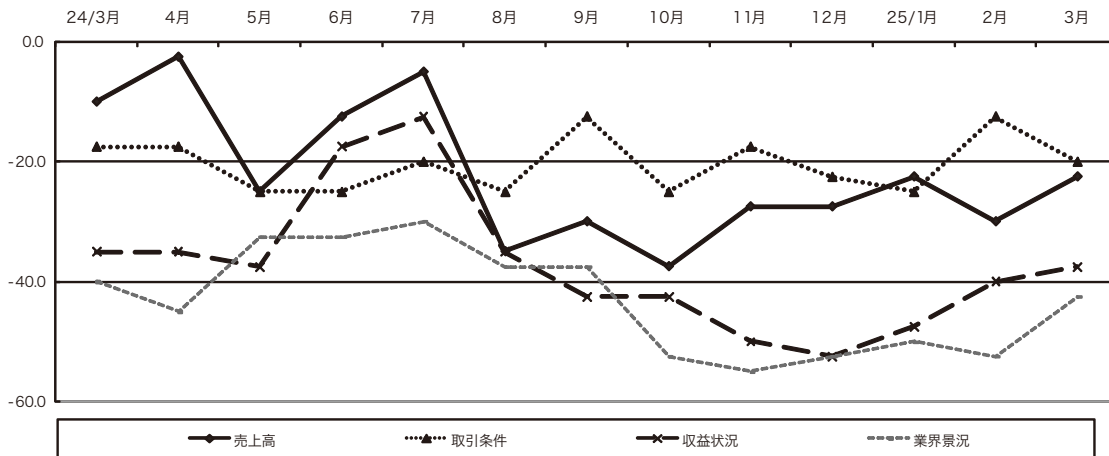


平成25年3月度 情報連絡員報告

全業種DI値
業界の景気動向(前年同月比)



	24/3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	25/1月	2月	3月	増減
売上高	-10.0	-2.5	-25.0	-12.5	-5.0	-35.0	-30.0	-37.5	-27.5	-27.5	-22.5	-30.0	-22.5	7.5
取引条件	-17.5	-17.5	-25.0	-25.0	-20.0	-25.0	-12.5	-25.0	-17.5	-22.5	-25.0	-12.5	-20.0	-7.5
収益状況	-35.0	-35.0	-37.5	-17.5	-12.5	-35.0	-42.5	-42.5	-50.0	-52.5	-47.5	-40.0	-37.5	2.5
業界景況	-40.0	-45.0	-32.5	-32.5	-30.0	-37.5	-37.5	-52.5	-55.0	-52.5	-50.0	-52.5	-42.5	10.0

概況

3月の前年同月比DI値は前月に比べ、3項目改善し、1項目悪化した。「売上高」は7.5ポイント改善し、「取引条件」は7.5ポイント悪化した。「収益状況」は2.5ポイント、「業界の景況」は10.0ポイント改善した。県内の中小企業の景況は、景気回復への期待感はあるものの、日本経済における株高・景気回復の影響が中小企業の実際の需要にまで及んでおらず、また、円安による原油価格や輸入原材料の高騰により、調達コストの上昇分を販売価格へ転嫁ができないとの声も多く、先行き不透明な状況が続いている。

紀伊長島IC開通に伴い、昨年同時期より賑わう。商店街(熊野)

製造業

【組紐】アベノミクスの関係か、原材料等はのきなみ値上げラッシュであるが、なかなか販売価格を上げるのは難しい状態である。それでも一部では値上げに応じてもらった。

【紙器段ボール箱】円安・株高で景況感は上昇しているかもしれないが、実需の増加には至っていない。2月に続いて昨年を下回る生産が続いている。大手製紙メーカーは在庫縮小で、価格維持を継続していくとのことである。

【伊賀焼】伊賀焼伝統産業会館入館者数・売上状況は前年度同期と比較して変わらなかった。また伊賀信楽古陶会館も前年度同期と比較して変わらなかった。双方とも売り上げ状況について、22年度、23年度よりも24年度の方が1年間のまとめた結果、やや増加した。

【電気機器】鳥羽】昨年の同時期に比べ、今までにない受注量の減少である。アベノミクスにより景気回復で期待感を持っているが、現実是非常に厳しい。

【輸送機器】鈴鹿】棚卸の在庫調整のためか、取引先からの急な注文数カットが多かった。また値上がりする購入資材が増えているが、下請けの立場では取引先に対してコスト増加分の値上げ要求などできないのが実情であり(逆に値下げを要求されている)、円安で儲かっている大手との経済観念の乖離が広がる一方である。

非製造業

【スポーツ用品】新入生が入ってきて新しい体操服の販売・クラブの新しいユニホーム等の販売で少しは忙しくなってきた。5月のゴールデンウィークまでが勝負である。

【商店街(熊野)】24日に開通した紀伊長島ICや、同時期に開催された熊野での全国中学生ソフトボール大会などもあり、熊野周辺の道の駅や宿泊施設等には昨年同時期よりも賑わいがあったようだ。商店街としては、熊野市内を巡る「ひなまつりスタンプラリー」も開催されており、各週末を通して賑わいがあった。

【旅館(鳥羽)】3月は春休みということもあり、前年並みに入っているようである。前年以上のところもあるが、規模も違うし、多少落ちているところもある。

【内装工事業】2月に続き、年度末工事の関係か売上は増加している。国交省が建設業団体に対して職人の賃金や下請け企業への委託費について適正な価格を求めたそうだが、まさに当組合に当てはまるので、早急な改善をお願いしたい。

【運輸業】輸送数量減少、営業収入減少、燃料価格が円安の影響から高値で推移のため、営業利益が悪化傾向にある。